



奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞



「奈良・人と自然の会」結成5周年記念行事

曾爾高原
一泊研修

豊かな自然の中での講演・観察会

心に残る懇親のつどい開催!

「奈良・人と自然の会（ネイチャーなら）」が結成されて5年を迎えました。
会員の友好と親睦を深め、会員のさらなる「ふれあい」を深めるために、結成記念行事の一環として、秋の“すすき”の美しい曾爾高原で、会員のみなさんと共に講演会や観察会をして心に残る懇親の「つどい」を開催しようと準備しました。
多くの会員のみなさんのご参加をお待ちしています。

【日時】 平成18年11月8日(水)～11月9日(木) (1泊2日)

【集合場所】 近鉄大阪線 名張駅 9時15分集合
9時30分発バス乗車

【交通】 ・上本町(急・青山行) 7:53、八木 8:34、
名張 9:01

【宿泊施設】 国立曾爾少年自然の家
(奈良県宇陀郡曾爾村大良路1170) TEL 0745-96-2121

【日程】 (1日目) ・講演「星と私たち」
五条市大塔 星のくに支配人 辻本尚克氏
・星の観察会

(2日目) ・周辺の観察会
・ファームガーデン・亀の湯

* 参加申し込みの方にはタイムスケジュールの「栞」を事前に送付します。

【会費】 4000円

【申し込み締め切り】 9月20日(水) 厳守でお願いします

【申し込み先】 下記世話人まで、氏名、連絡先等をお申し込み下さい。

【世話人】 小 嶺 敏 勝
岩 田 利 秋

★多数の会員の参加を
お待ちしております★

生物多様性について I

川井 秀夫

1 「生物多様性」とは

地球上の生物が、約40億年をかけ進化の過程で多様に分化、生息場所に応じ相互の関係を築きながら、地球の生命体を形づくってきました。

この様な生物の世界を『生物多様性』と言います。しかし近年人間活動による生物の生息地の破壊や乱獲が進み、地球上の生物多様性は急速に失われつつあります。

「生物多様性」3つのキーワード

① 固体の多様性

同一種の生物であっても、通常目にする動物や植物にはそれぞれの固体間に明らかな違いがあります。つまり「固体の多様性」とは、個々の固体の遺伝子的な違いの多様性のことを言います。

クローンは遺伝子的にまったく同一であるため異常気象などの環境変化に対して同じ様な対処しかできず、脆くて弱いものと考えられています。

このことから、様々な遺伝子をもった同種固体が存在することによって環境変化に対処がしやすくなっているのです。

② 種の多様性

種とは、固体の多様性がさらに進み、他の固体と明確に区分できるようになったものです。これが生態系の構成単位により重要な役割を持っています。一般的にはこの「種の多様性」が生物多様性だと思われています。

③ 生態系の多様性

生物は個々に勝手に生きているのではなく、他の生物とともに一定の生物圏に組み込まれた生存競争の下で、相互依存的に生息しています。これを「生態系」と言います。この生態系が様々な自然環境の中で多種多様な生態系を形成して存在しています。これを「生態系の多様性」と言います。そして様々な生態系での生存を可能にしているのが「固体の多様性」の遺伝形質の多様性であり、3つは密接につながっています。

2 生物多様性の重要性

生態系は常に変わっており、一度壊れてしまった生態系は二度と同じものに回復出来ません。生態系の一部が損傷しただけならば回復することもあります。また、たった数の種が絶滅したら、生態系の中の微妙な相互依存関係が崩壊し、生態系が根底から破壊される可能性が大きくなってきます。

更に大規模な破壊が起きると、必然的にそれを構成する種の多様性、固体の多様性が多く失われます。

またそれが他の生態系の多様性にも影響を与え、マイナスのスパイラルとして更に拡大していき、いずれ生態系の頂点にある人間の将来にも大きな影響が考えられます。

この稿次号に続きます。

「くろんど池を訪ねる路」行事報告

担当：大寺道代

日時：平成18年7月6日（木）近鉄奈良線富雄駅 9：30集合

行程：午前「くろんど池を訪ねる路」奈良県側＜約4km＞

富雄駅→（バス30分）→高山八幡宮（重文）→高山竹林園（竹の生態園・伝統竹製品展示）→高山城跡（標高218M・山城跡）→くろんど池（灌漑用溜池）

午後「私市ハイキングコース」大阪府側＜約3.2km＞

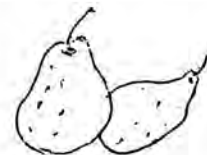
くろんど池→スイレン池→月輪の滝→京阪交野線私市駅（解散）

参加者：川井・弓場・岩田（利）・平塚（等）・西谷・吉村・福谷・家入・宮沢・大寺
計11名

富雄駅（標高110m）から富雄川に沿って北へ、くろんど池（標高230m）までの標高差120mのゆるい上り道。くろんど池から私市駅（標高400m）への標高差190mの下り道。池を分水嶺として、奈良県側のゆるやかな田園を抜ける川沿いのコンクリート道とコナラ等の二次林の上り道、里山の中のハイキング。大阪府側への清流に沿って下って行く緑深い森林の中のコース。岩の間をぬって川の水音を聞きながら、全く違った地形の対比が面白く感じられました。

奈良県側で観察されたものは、昆虫、ミヤマクワガタ、カブトムシ、ジャノメチョウ。富雄川にはハヤが沢山泳いでいました。植物では、ハンゲショウ、オカトラノオ、ウツボグサ、コマツナギ、キツネアザミ、ヘクソカズラ、ネジバナ等、季節の変わり目で、種類はあまり多くありませんでした。

高山は茶筌の里として知られ、冬場に「竹の寒干し」が風物詩として有名。その季節にもう一度訪れてみたいところです。



社会貢献事業 「黒髪山自然塾」報告

自然観察と昆虫採集

境 寛

7月23日梅雨の最中の行事で、天候が心配でしたが、曇り空の中無事行事を終了できました。

講師派遣については、川井会長をはじめ6名の参加（別記*）をいただき、午前の自然観察は成功裏に終了いたしました。自然観察の概要と諸注意の後、講師1名に約10名の子供を引き連れ場内を観察、1時間あまり子供たちは飽きもせず熱心に講師の話に耳を傾けていました。

午後はカブトムシに子供たちは大興奮、採集では7匹を捕まえて大喜びでした。ただ心配していたマムシが昆虫採集中にでて一瞬ヒヤッとしました。自然相手のことで、あつて当然のことですが無事終わり主催者としてホッとしました。子供たちや保護者には、良い経験になったのではないのでしょうか。

* 参加者：川井・樋口・林・小嶺・岩田・古川

小田 進八郎

長谷寺の門前町を進むとき正面に与喜山が立ちのぼるようによびえ、アルプスにでも臨むような気分になった。途中、初瀬川の川面にバイカモを見て、与喜天満神社と素盞雄神社に参拝。県下一と言われる初瀬の大イチョウから不思議な力を授かって、いよいよ登頂開始。しかし、千古斧が入ることを拒んできた山だけに易々と我々を受け入れてはくれなかった。登山口さえはつきりせず、ルートがあるような無いような、しかも初めから急斜面が続く厄介な登りで、両手を使いながらの悪戦苦闘が続いた。「あとどれくらい？」の聲が繰り返されるが、周到な下見に裏打ちされた幹事の適切な案内で、脱落者も無く13名が山頂に立った。滴る汗をぬぐっての昼食の味は格別であった。

下りは山頂から北に向かう。頂上付近にはアサギマダラの食草であるキジョランが蕾をつけていた。尾根の西側は照葉樹林、東側は植林された針葉樹林で、山全体が保全されていないことがわかったが、一部でも寺林として残されたことを喜ぶべきだと思い直す。勾配のきつい植林地帯を抜けてまほろば湖に到着。ここでヤマセミ1羽とウミネコ約20羽を確認。

一般公開中であった初瀬ダムでは、冷たいお茶をいただき、地下40m・摂氏10度の涼しいダム内部を見学するうち疲れも吹っ飛ぶ。おまけに敷地内を通り抜ける近道まで利用させてもらった。

長谷寺まで下って、ふもとから改めて与喜山を見上げる。赤っぽいブロッコリを山肌に詰め込んだような、モコモコしたこの山肌が、まさに照葉樹林の姿だ。本来ならこのような山がどこまでも広がっていたはず。しかし今、日本の山を覆う緑は植林された針葉樹林ばかりで、この森のような植生の豊かな本来の緑を取り戻すことの困難さを思わずにはいられなかった。

7月度例会「長谷・天神山 与喜山暖帯林観察会」実施報告

- ・日時 7月26日(木) 曇後晴 気温33度 集合 近鉄長谷寺駅 10時
- ・参加 14名: 川井、小田(夫妻)、甲斐野、弓場(夫妻)、吉村、高橋、堀川、林、福谷、尾上、古川、(岩田:下見のみ) の各氏
- ・行程 長谷寺駅-与喜天満宮-スサノオ神社-与喜山暖帯林入口-磐座-天神山頂上-まほろば湖-ダム事務所-長谷寺・解散(15:00) 距離 6.6 km
- ・所感 三輪、巻向、初瀬の山々に連なるここ天神山は古代信仰の地である。また天然記念物与喜山暖帯林の植生は豊かで玄人受けするところ。更に野鳥も多いとかで、植生に詳しい高橋さん、野鳥の小田さんの参加を得て充実した観察会となった。コースは「奈良百遊山」によると体力・技術ともに一般向きAとなっているが、登山道はまったく整備されていない。標高こそ455mと低いものの直登に近いルート取りとなって聊かハードだった。未整備な山路を這い上がり、やぶこぎで下るなど苦労もあったが、木本約100種を確認し、野鳥ではヤマセミ、ウミネコを観察するなどの収穫も多く、内容の濃い一日となった。有志の反省会では、またまた苦吟に汗を流す破目となった。
 - 「与喜山や一步一步の玉の汗」 (川井)
 - 「鬼女蘭の白き花咲く与喜の杜」 (弓場)
 - 「朽葉路 四駆となって掻き上がる」 (古川)
 - 「山翡翠や一直線のまほろば湖」 (川井)

担当 古川 祐司

「奈良県環境フェア」報告

小嶺 敏勝

〔日時〕 7月29日(土)

〔場所〕 大和高田市奈良県広域地場産業振興センター

〔制作〕 「モックン」「鶯笛」「ブーちゃんペンダント」「ワンちゃんペンダント」

〔スタッフ〕 樋口、川勝、甲斐野、斎藤、岩田和、本郷、林、岩田秋、小嶺

今年は梅雨明けが遅く、朝から厳しい暑さ。9時30分全員集合

昨年の経験から材料は大巾に増やし各々100～120個合計430個用意し、一度に10人が制作出来る様に配置する。10時開場と同時にどの係にも、途切れる事なし。順番待ちも出る、出来た作品を見て大喜びの親子、孫にと、年配の女性の感謝の言葉を励みにスタッフ全員休みなしで頑張る。3時半過ぎには、とうとう材料がなくなった。

その後も、噂を聞いたり見たりで我々のブース目当てに来る多くの子供達に謝るスタッフは皆、心苦しうであった。お疲れさまでした。



モズ

小田 久美子

都心のビル街にはいないし、かといって森の鳥でもない、見晴らしの良い公園、河川敷、農耕地などを好むが、スズメのように人家に営巣するでもなく、ツバメやセキレイのように益鳥としても見られず、溺愛もされずかといって敵視もされず、農耕民族である日本人が季節を知る手がかりにして詩歌、絵画に取り入れ、身近な鳥としてお互い付かず離れずにきた代表的な鳥です。

毎年立秋を過ぎ、目にはさやかに見えずとも・・・何処となく秋風の立ち始める頃、オオヨシキリからバトンタッチされた雄のモズが、高い木の梢で[キキ、キキ]と縄張り宣言をします。この原稿を書いている8/8が立秋なのですが、今年のように梅雨が長くついでこの前夏になったのでは私でなくても「エッもう秋！」モズ君としてもまだ準備不足かな？肉食性ということや嘴の形などから猛禽的な要素の極めて強い鳥ですが、スズメ目で俗に鳴禽(メバウ)と呼ばれる可愛い小鳥の多い仲間の一員なのです。獲物を枝やトゲなどに引っ掛けたりするハヤニエという習性がよく知られていますが。これはエサのない冬に備えるとか、飽食時の遊びだとか諸説があります。枝に刺したまま忘れたり、百舌鳥と書くように他の鳥の物まねを得意そうにしているのを見かけると、遊びも入った余裕のある行動なのでしょうか。信州ではこの[キキ、キキ]を「モズの初鳴き七十五日」といって、この日から七十五日目に初霜を迎えると云われ旧暦の霜月(11月)にあたるそうです。





春日にも鎮魂の火あり大文字 川井 秀夫

8月は当会の行事はお休み。京都と奈良の送り火を観る機会を得ました。
高円山の燃え盛る火は、戦没者の灯であり、この火がある限り、戦争の惨禍が
風化する事は無いでしょう。



- ★毎日セミが賑やかです。ウグイスが遠いところから鳴き声がきこえてきます。
ホトトギスですが7月23日頃からパタリと鳴かなくなったので最後のホトトギスもい
なくなったと思っていましたらなんと8月6日朝10時ころ大きい声で鳴いてびっくり。
2回ほど。そのあとまた鳴かなくて昨日朝5時ころ遠くで1回。どっかの山へ行く途中
にちょっとここで鳴くんではないでしょうか？こんなことって今まで初めてです。
- ・ ミンミンゼミって最近はこちらで全然聞きませんが7日猿谷ダムで さかんに鳴いて
いました。奥深いところにいるんですね。 (齋藤和)
- ★西大寺のアオバズク (4羽) 今年も 7/18 無事巣立ちました (小田)
- ★ [斑鳩だより] 8/15久しぶりにイソヒヨドリの子。いつも見かけるスーパーの駐車
場の近くの民家のアンテナに止まって甲高い声で鳴いていた(地鳴きにしてはかん高く
きれいな声。8月にしかも子も鳴く?)
- ・ 竜田川のダッ君(カルガモ雄・雌雄不明)が竜田大橋付近に来たカルガモの親子(4羽)
に向かって鳴きながら執拗に追い掛け回しました。親子は逃げ惑いましたが、しばらく
したら一緒になり上流へ泳いで行きました。自分の縄張りだと思っているのでしょうか。
(この冬にもマガモたちを追い回していました)
- ・ ツバメの雛たちちよつと遅生まれです。6・7月生まれより育ちが遅いです。今から巣
立って 長旅は大丈夫なんでしょうか? (勝田)





【奈良忍辱山森林整備作業】

- 〈場 所〉 奈良忍辱山国有林 (淀川、木津川、白砂川の源流域)
(忍辱山円成寺駐車場) より徒歩10分 10月より作業地変更予定
- 〈集合場所〉 国道369号線
忍辱山円成寺駐車場 (バス停 円成寺口と忍辱山円成寺の間)
- 〈日 時〉 9月 3日 (日) 9時20分 第55回
9月21日 (木) 10時20分 第56回
10月 3日 (火) 10時20分 第57回
10月21日 (土) 9時20分 第58回
(終了予定) 午後3時頃

【天 候】 午前6時 奈良県北西部に警報が出されている場合は中止いたします

〈交 通〉 奈良交通バス

平日 [梅の郷月ヶ瀬温泉行き]

土・日・祝 [柳生行き]

JR奈良駅⑥番乗り場 近鉄奈良駅④番乗り場 忍辱山円成寺

日祝 8:26 8:29 9:02

平日 9:30 9:33 10:06

臨時バス お問い合わせ 奈良交通 ☎0742(20)3100

〈持ち物〉 ヘルメット(防災用)、手袋、スパッツ、鋸、防護眼鏡、弁当、飲み物
ヘルメット、防護眼鏡、鋸等の用具は当会にて多少は用意しております

《未経験者には基本より指導いたしますのでお気軽に。森林を楽しみましょう。》

作業をしなくても結構です。森林浴を楽しんで下さい。待ってます。

〈連絡先〉 弓場厚次

阿部和生

寺田正博

【作業報告】

7月29日(土) 晴 気温 10時 28℃ 14時30分 29℃

(参加者) 中畑、竹本(V)、小森、大石、岩中(v)、明石、阿部、寺田。8名
作業地のゴミの清掃を行なう。空缶、テープ、投棄廃材等大量のゴミを集積。

2時過ぎより雨が降りだし2時40分頃終了。 事故なし

8月6日(日) 晴 気温 9時30分 26℃ 13時 31℃

(参加者) 小嶺、中畑、川井、竹本(V)、弓場、寺田。 6名

現在地はほぼ終了に近付きました。

《植物語源豆知識》 カエデ 楓 鶏冠木

歴史仮名はカヘデ。『大言海』に「カヘデはカヘルデの略。カヘルデの木、略してカヘデ、転じてカイデ」とあるように、葉が蛙の手に似ているからが語源で、ル音脱落現象によっており、『万葉集』にも「蝦手 かへるで」と表現している。鶏の頭にある、トサカに似ているとしたのは中国古典からで(漢語抄弁色立成)、それは形のみならず色が赤いことも理由になったのでしょう。そこで、紅(黄)葉するモミジとのダブリが生じるわけだと思える。参考引用書 「語源辞典 植物編」吉田金彦 東京堂出版

第16回近畿自然歩道・まほろばの路

“高見山を越える路”

紀伊勢南街道ふれあいルート。台高山脈の北の代表、ピラミッド形の秀麗な山容をもつ「高見山」に登るコースです。

旧伊勢街道でかつては交易路として栄えた“市”の跡を通して小峠、大峠(高見峠)を経て頂上(1249m)へ向う。山頂付近はブナ林が広がり、頂上には「八咫鳥建角命」を祭る高角神社の祠と展望台、避難小屋がある。展望は360度に広がり、三峰、鎧岳、兜岳など室生の山々、金剛、葛城連山、大普賢など台高山脈から大峯の山々が望むことが出来る。

「関西のmatterホルン」といわれる初秋の高見山を楽しみ、樹齢700年といわれる高見杉に出会いませんか。ご参加をお待ちしています。

【日 時】 9月14日(木) (小雨決行)

【集合場所】 近鉄大阪線 橿原駅 南口 バス停 9時

【交通】・西大寺 7:57(急行・橿原行)大和八木 8:18(乗換・大阪線)8:34(急行)橿原 8:47 着

・近鉄難波 7:47(準急)鶴橋 7:52(乗換・大阪線)7:55(急行)橿原 8:47 着

・橿原神宮前 8:26 大和八木 8:31(乗換・大阪線)8:34(急行)橿原 8:47 着

*奈良交通バス 橿原 9:15 発 大又行に乗車、鷲家乗換え登山口下車

【コース】 登山口—小峠—大峠—高見山—高見平野 (8km)

【持ち物】 弁当、観察用具、雨具など

(担 当) 岩田 利秋

9月度例会『巨勢の道』



秋の陣が始まります。古代ロマンの道を、初秋の風に吹かれ楽しんで下さい。

1 日 時 9月25日(月) 小雨決行

2 集 合 近鉄 吉野線 葛 駅 AM 9:50分

3 交 通 奈良方面から

	西大寺	橿原神宮	葛
橿原神宮行 急行	8:42	9:13 (乗換)	9:30⇒9:42
” 普通	8:48	9:23 (乗換)	

大阪方面から

	阿部野橋	
吉野行 急行	8:50	9:30 9:42

- 4 コース 葛 駅⇒巨勢寺塔跡⇒阿吽寺⇒川合八幡神社⇒水泥古墳⇒
大穴持神社（昼食）⇒栗坂峠⇒葛木坐御歳神社⇒焼け地蔵⇒船宿寺
⇒バス 御所駅 歩程10キロ ほぼ平坦道
- 5 持ち物 弁当、飲み物、雨具、観察用具、軽装 暑さ対策充分に。
- 6 担 当 川井 秀夫

<10月の予定>

第17回近畿自然歩道・まほろばの路<丹生川上神社と巨木を巡る路>

- [日 程] 10月7日(土)
[集 合] 近鉄大阪線 榛原駅 南口 バス停 午前9時
[交 通] 西大寺 7.57(急行)8.18 八木(乗換)8.34(急行)榛原 8.47 着
近鉄鶴橋 7.55(急行)榛原 8.47 着
奈良交通バス 榛原駅9:15分発 大又行き乗車
[コース] 蟻通しー杉谷(登山口)
[担 当] 小嶺 敏勝



10月例会 「吉野・妹背山」

- [日 程] 10月22日(日)
[担 当] 豊島すみ子

*詳細は会報 57号<10月号>でお知らせします。

協力活動「いこま棚田クラブ」9月活動日 ご案内

活動日…9・3(日)、9・11(月)、9・17(日)、9・25(月)

9月30日(土) 八尾の皆さん25名ほど (地域こども教室)

“棚田は、あなたを待っています！”

集合場所：近鉄生駒駅下車 南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前
集合時間：9時 現地までタクシー他 分乗で移動。持ち物：飲み物、弁当、作業スタイル

平成18年8月定例幹事会議事録

日時：平成18年8月1日(火) 17:30～20:30 場所：奈良県女性センター

出席者：10名

司会：勝田 書記：小田

【報告事項】

- (1) 会員動向：91名 会計報告：219,303円 8月に新名簿作成予定
- (2) 7月度例会：7/26「天神山・与喜山暖帯林」参加者：13名(下見3) 担当：古川
- (3) まほろばの路：7/6「くろんど池を訪ねる路」参加者：11名(下見2) 担当：大寺
- (4) 忍辱山 森林整備作業：7/29 8名参加 9/21の終了後も断続的な活動を模索中
- (5) 黒髪山C/F 自然塾 自然観察会：7/23 受講生64名(応援6名)
- (6) 奈良県環境フェア：7/29 (応援9名)
- (7) いこま棚田クラブ 地元の要請で地蔵の周りの草刈、奈良生協との「菜の花共同プロジェクト」
- (8) 『全労災』より助成金の交付を受けた

【討議事項】

(1) 行事予定の確認

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 例 会：9/25(月)「巨勢の路・風の森」 | 担当：川井 |
| 10/22(日)「吉野・妹背山」 | 担当：豊島 |
| まほろばの路：9/14(木)「高見山を越える路」 | 担当：岩田 |
| 10/7(土)「丹生川上神社と巨木を巡る路」 | 担当：小嶺 |
| 奈良忍辱山森林整備作業：9/3(日)・9/21(木) | 担当：寺田・阿部・弓場 |

- (2) 助成金活用方法について：継続的に検討する
- (3) オプション行事(熊野古道)実施について：日程が難しいので来年度に向け検討する
- (4) 会報誌・シリーズ記事について：幹事輪番でリレー随筆を担当してはとの提言あり
- (5) その他：☆「5周年記念」の企画 11/8(水)～11/9(木)「曾爾高原一泊研修」
 - ・会報 9月号で参加者を募集する 担当：小嶺、岩田
 - ☆8/20(日)奈良市都祁村「はなはなビレッジ」にて自然工作の部で応援参加の予定
 - ・今後 奈良市、他の会と共に継続的に整備に参加の予定 担当：阿部

編集後記：当会も会員皆様のご協力により、5周年を迎えることになりました。あらためてお礼申し上げます。この機会に楽しく思い出を語り合い、今後のステップとするために曾爾一泊研修を企画いたしました。どうかお気軽にご参加ください。

編集担当：勝田 均

TEL&FA

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫